



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第30回例会(2月24日)
平成29年3月3日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 駒木 進
幹 事 海野 尚
会 報 熊谷 隆司
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

ROTARY SERVING HUMANITY. '人類に奉仕するロータリー'…… ジョン F ジャーム

創立記念例会卓話



『盛岡 R.C 創立と米山梅吉氏』

(株)久慈設計 代表取締役会長

小川 惇君

創立記念卓話ということで、盛岡 R.C と日本のロータリークラブ創設者の米山梅吉氏のご縁についてお話いたしますが、その前にちょっとプログラム委員の方々のご苦勞をご披露させていただきます。というのは2月3日に長野先生が卓話を引き受けられた時の経緯を話されましたが、勝部プログラム委員がニコニコしながら近づいてきたので、何か嫌な予感がされたと話されました。プログラム委員がニコニコしながら近づいて来たら指名されるもんだと覚悟されたらよいと思います。そして、私の時も同じような雰囲気でした。ただ、主役は勝部さんではなく福井プログラム委員長でした。昨年12月の例会で、私と勝部さんが話し込んでいた時に福井さんが近づいてきて、勝部さんが担当だったようですが「勝部さん、2月の創立記念日の卓話はまだ決まっていませんよね」と私の方をちらちら見ながら言っていました。狙われているなと思いました。それなら、いっそいつか披露したいと思っていた、あまり知られていない盛岡 R.C と米山梅吉氏とのご縁のことを話させていただくことにして、お引き受けした次第であります。

ご存知のように、米山梅吉氏は、現在米山記念奨学会として日本のロータリー活動のひとつとして名前が残されており、静岡県三島には米山梅吉記念館というものが建てられています。

それでちょっと米山梅吉氏のことを先にお話

しさせていただきます。米山氏は明治元年、東京芝田村町で土族和田竹造の三男として生まれますが、5歳の時に父親が死亡したため、母の実家静岡県三島に帰ります。神童の誉れ高く、請われて長泉村の地主で村長さんもやっていた米山家の養子となります。

沼津中学から東京銀座の江南学校、青山の東京英知学校（今の青山学院）に進み、明治21年アメリカに渡り、8年間ベルモント・アカデミーという高校、オハイオ州ウェスレアン大学、ニューヨーク州のシラキュース大学で法学を学んで、日本に帰って日本鉄道会社に入社し、明治30年に三井銀行に移ります。常務取締役の時に訪米し、ロータリークラブの存在を知り、その奉仕という理念に共鳴して、大正9年53歳の時に日本初の東京ロータリークラブを発足させ初代会長となります。

大正13年、日本で初めての信託会社、三井信託株式会社を創立し社長を務め、昭和13年貴族院議員にもなっております。

昭和15年、支那事変が起き、ロータリーができて20年目になりますが解散せざるを得なくなり、「水曜クラブ」と名を変えて、ロータリー活動を戦時中も続けられて、終戦後昭和21年に静岡県長泉村にて死去されました。

生前多くの、特にアジアの留学生や国内の苦学生に無名で多額の援助を惜しまなかった氏の遺徳を偲んで、日本だけの「ロータリー米山記念奨学会」が生まれ、現在に至っているわけです。

その米山梅吉氏が、盛岡 R.C の創立時のチャーターナイトにおいでになり、祝辞をいただいていたということは、あまり知らされておられませんので、今日の創立記念卓話でご披露させていただくわけです。その前に盛岡クラブ 50 周年の時に作られた『ビッグ・フライデー』という記念誌がありますが、その中から盛岡クラブの草創の時代のことを要約してご披露したいと思います。要約と申しましたのは、この『ビッグ・フライデー』は非常に詳しく記述されておりますので、2~30 分では話しきれませんので、勝手に要約してお話させていただくわけです。

そこには、盛岡 R.C 誕生のきっかけとして、3つのエピソードが挙げられております。

○そのひとつは、昭和 13 年 5 月 2 日のことです。

盛岡市内の料亭で、台湾の台北ロータリークラブの会員になっていた関文彦氏の 15 年ぶりの来盛を歓迎する酒宴が催されました。関氏が旧知の仲であった佐々木休二郎氏に言いました。『時に、佐々木さん、盛岡にロータリークラブはまだなかったですね』『なんですか？ロータリークラブというのは？』から始まり、話を聞いているうちに興味がわいてきた佐々木氏は、台湾に帰る関氏に会則や名簿を送ってもらうことにしました。

○エピソードの 2 つ目は、その 4 年前の昭和 9 年に冷害による大凶作が東北地方に起こり、その大凶作を契機に東北振興の世論が盛り上がりました。その結果昭和 11 年 10 月、産業振興の中心的役割を担う東北興産(株)が設置され、金森太郎という人物が副総裁として仙台に赴任してきます。

時あたかも、東北最初のロータリークラブが昭和 11 年郡山に誕生し、仙台でもロータリークラブを創設する準備が進んでおりました。金森氏は、チャーターメンバーの一人として、昭和 12 年 2 月に仙台ロータリークラブが創立され、副会長としてロータリークラブの発展に貢献しておりましたが、昭和 13 年近代的な産業の開発に立ち遅れていた盛岡に、東北振興とロータリークラブの設置という 2 つの目的で足を運んでおります。この金森太郎氏がどういう方かよくわかりませんが、日本人で初めて国際

ロータリーの会長になった東ヶ崎潔氏の奥さんのお兄さんだそうですので、ロータリーに深く関係していた方ようです。

この年、東北興産が資本を投じた 2 つの会社が盛岡にあります。1 つは盛岡精器製作所、もう 1 つは東北振興繊維工業(株)というものであります。ここで興味深いのは、東北振興繊維工業の地元の出資者の多くは、盛岡ロータリークラブのチャーターメンバーになっていることです。それは会社設立が進む中、同時進行でロータリークラブ結成への動きがより具体的になってきたためと思います。

○3 つ目のエピソードは、最も興味のあるところで、岩手殖産銀行頭取板井賛次郎氏を中心としたゴルフ仲間の集まりがありました。盛岡の実業家がゴルフを楽しむようになったのは昭和 10 年前後からで、玉山村の一本木付近にあった練習場で、クラブを握っていた板井賛次郎・二見直三・池野権治、現在の南部家当主南部利文氏のおじいさんの南部利英氏、そして村井研一郎会員のお父さんの村井源一氏の方々がメンバーで、この人脈が東北振興という大義名分以上に盛岡ロータリークラブ創設の原動力になったようです。

この 3 つの要素がからみあって、昭和 13 年の暮れに盛岡ロータリークラブを結成しようと、現在のナナック、以前の川徳デパートで第 1 回の会合がもたれて、結成することに決定しました。

こうして、昭和 14 年 2 月 23 日に県公会堂で発会式を行いました。これは単に 1 クラブの創立ではなく、当時国家総動員法が公布されて戦時体制が一段と厳しさを増していくなかで、全国のロータリアンに明るい話題を提供したということで、大きな祝福を受けることになったそうです。

この辺に盛岡クラブ創設の大きな意義があったと思います。

その発会式には、スポンサークラブとして東京クラブと仙台クラブの方々が出席しましたが、贈呈する品物をロータリー時計か開会点鐘の鐘か会場監督の記章のうち何にしようかと相談中、あたかも「金ヶ崎」駅に到着し、贈り物は「鐘が先」に決定したとユーモアを交えた祝辞があったそうで、残りの時計は盛岡出身の東

京クラブ元会長の鹿島精一氏から、記章は盛岡と縁の深い東京クラブ前会長の赤星陸治氏から寄贈されました。

この「金ヶ崎」という駅名は、「沼宮内」駅とよくひっかけ言葉として使われます。例えば、「弁当をください、金ヶ崎」とか「弁当ください、沼宮内」（うまくない弁当）というものです。このひっかけ言葉は岩手県にもあります。ご存知の方はおいででしょうか。それは「誕生日をいってけん」というものですが、なんか冷めてしまったようです。本題に戻ります。

2月23日の発会式のあと、ただちに国際ロータリーに加入申請をしましたが、20名のチャーターメンバーが揃わず、また集まった15名のうち銀行関係が4名もいて、1業種1名の原則から外れておりました。しかし、近いうちに20名を集めるということで、特別に承認を受けての発足で、昭和14年2月に日本で一番少人数のロータリークラブとして発足しました。しかし、社会の状況は厳しさを増しており、盛岡クラブが誕生した昭和14年2月の段階では、まだ「名士の集まり」といことで表面だっただけで非難されませんでした。軍部による圧迫がまもなく始まるようになっておりました。そういう状況の中、昭和14年7月新年度になって、登録披露式を仙台クラブと合同で催す話が持ち上がります。

そして9月29・30日に東北帝国大学講座と松島のニューパークホテルで開催されました。その日は秋晴れの好天に恵まれ全国の主要都市から実業人200余名が婦人・令嬢を同伴し、東北帝国大学講座に参集しました。これは仙台ロータリークラブの会長が東北帝国大学総長の本多さんという方だったからできたことで、本多会長と盛岡クラブの板井会長のあいさつ後、仙台市長の歓迎招待会に臨みました。翌日、塩竈神社から松島のニューパークホテルへ移動し、両クラブの披露式と晩さん会チャーターナイトが行われました。米山梅吉氏は、このチャーターナイトにおいてになり、松島ニューパークホテルから中継で仙台中央放送局の「ロータリー精神と東北の産業」という題で全国に放送されております。

それでは、その本文を読み上げ、創立記念卓話といたします。

国際ロータリーの精神

米山梅吉 述

「従来東北地方といえば一種悲観的な代名詞として、地理上常に災害の救済に多忙なる別天地の如く思惟されたるものなるが、近來面目を一新して萎靡不振の経済状態より脱出し、東北興業会社の設立等と待ちて産業の各部門に頓に発展の機運を示しつつあるの事実を見るは、眞に同慶に堪へざるところであります。

凡そ事業の計画は、其の会社組織によると個人の経営に成るとに論なく、先づ社会共同利益のためにするの精神に於て企てられざるべからず、実業及専門職業人の結合に成るロータリーの主義は此にありて、各自其の従事する職業を通じて社会に奉仕せんがために努力せんとするものなり。蓋し近年東北地方の著しき勃興は、必ずや事業の根底に共同の利益を第一義とし個人の事を後にする道義観念の充実せるに因るべく、即ち電力、金融、原料又は製造力といふが如き物質的条件以外に、精神的な一大動力の開発されたるが為にして、斯くて将来益々隆昌を極め、他日東北地方とは繁栄を意味する代名詞となるの時到来すべきなり。我がロータリーに於ても、前年郡山に一クラブの出来たる外東北地方には其の増加を見ること容易ならざりしに、今や仙台にも盛岡にも之が設立を告げ、茲に今次の如き盛大なる集会を見るに至れるは喜ぶべきで、東北地方に尚ほ多数ロータリークラブを設立されんことを切望するものであります。

此の機会に於て所謂ロータリー精神に就き少しく説く所あらんとするは、今夕の講演は此の席上の会員諸君に向かつてのみでなく、広く他に放送されているからであります。

新に設立を承認せられたるクラブは、慣例としてチャーター・ナイトの催しを行ひ、其の属するロータリー區の監督及近傍クラブ会員の参列を求めて祝賀会を開くのである。ロータリー・クラブ通例の会合は概して昼食時に於てすれども、此のチャーター・ナイトの如き特別のものは夜分にかけて之を開き、会するもの多くは家族も同伴にて、賑やかに愉快に而して有益に行事を済ますのである。仙台、盛岡両クラブともに、其の延期してあつたチャーター・ナイトを此度合同で開催されることになり、我々

はそれに出席のため當地に参上せる次第である。」

というもので軍部の圧力が強くなってきた情

況の中でロータリー精神を世論に訴えた米山梅吉の勇気ある発言に盛岡クラブのことが述べられておりますことを申し上げまして、卓話とさせていただきます。



例 会 報 告

第 30 回例会
平成 29 年 2 月 24 日(金)

- 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 駒木 進会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ビジター 樋山 桂君 (会友)

- ・会長報告 駒木 進会長
- ・入会祝 千葉隆史君。
- ・幹事報告 星 克彦副幹事

札を探してしまいました。一日も早く会員として復帰できる様、仕事に努めます。

【ニコニコ BOX】

- ◆樋山 桂君 (会友) … 5 年間に在籍した盛岡クラブに今日は会友として約 8 ヶ月振りに参加させて頂きました。つい、入り口に自分の名

- メークアップ
花巻南 R.C.= 作田君。二戸 R.C.= 島山君。地区=米内君。盛岡南 R.C.= 伴君。クラブ委員会=橋本・勝・長野・檜崎・白石君。

※訂正とお詫び…第 28 回例会号「第 3 回クラブアッセンブリー」でプログラム勝部民男委員長と記載しましたが、委員の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

出席報告 会員数 / 75 名 出席数 / 49 名 出席率 / 69.44% 前々回修正出席率 / 72.22%

プログラムの
お知らせ

- ・ 3 月 3 日(金) 会友卓話 下山 寛会友
「続・意外と知られていない南部さんの系譜」
- 10 日(金) ゲスト卓話 千葉 信胤様 (平泉文化遺産センター館長)
「世界遺産関連から見た日本の特異性」
- 17 日(金) 環境保全ポスター表彰式
- 24 日(金) ゲスト卓話 永井 隆様 (本誓寺 (紫波町) 住職)
- 31 日(金) 特別休会

- 本号編集担当 / 岡本 晃吉
- 次号編集担当 / 長谷川 桂